資料１－３

「民都・大阪」フィランソロピー会議について
～アジアの民都（公益首都）をめざして～

「民都・大阪」フィランソロピー会議
出口　正之

■ なぜ「民都・大阪」をめざすのか

○わが国は、戦後一貫して**東京一極集中が進む**中、**人口減少・超高齢社会に突入**し、**社会経済構造の大きな転換点**を迎えている。
生活・暮らし、健康、安全安心など、社会的課題の多様化に対応していくため、従来の行政サービスに加えて、**民の力を活かした厚みのあるサービスの構築**により、**誰もが豊かでいきいきと暮らせる社会の実現**が求められている。

○こうした中で、国内では、NPOや社会的企業など**社会的課題解決に取り組む新たな主体の増加**、CSR（企業の社会的責任）の取組みが着実に進んでいるが、さらに世界では、**寄附や投資等を通じた公益活動が新たな時代の潮流と**なり、**「フィランソロピー（※）」**への関心が高まりつつある。

○大阪は、町人が自分たちで多くの橋を整備していったように、**都市発展の歴史において、民の力が大きな役割**を果たしてきた。**官の発想を超える活力**を社会の中心に据え、**「民が主導する社会」**を大阪から創りあげ、国内外に発信していくことにより、東京とは異なる個性・魅力をもった東西二極の一極として**【民都・大阪】の復活**を果たしていく。

※「フィランソロピー」について
語源は、ギリシャ語の「愛する」（Phil-）＋「人間」（Anthropos）で「慈善活動」や「博愛」を意味する語。
社会貢献活動の総称。ここでは、社会的課題解決に向けて行う寄附や社会的投資等を通じた公益活動をいう。

フィランソロピーを通じた「民都・大阪」の実現

○我が国では、福祉や医療、教育などの様々な分野において、それぞれの主体が社会的課題の解決や公益の増進に取り組んでおり、また近年では、いわゆる社会的企業のような新たな主体も増えつつある。

○このような**多様な主体が法人格や営利・非営利の枠を超えて**、これまでになかった**連携や協働**（新たなアライアンスの構築）**を生み出し**、資金・人材の確保や情報発信などについて、従来とは異なる**新たな取組みを進める**ことにより、大阪から民が主体となった**社会的課題の解決を先導する。**

○これらを通じて、自らの知識・能力・経験などを活かして公益の増進や社会的課題の解決に取り組みたいと考える**人材を支援**するとともに、住民一人ひとりが**活躍できる社会づくりを後押し**する。また、こうした動きにより**新たな産業や市場、雇用を生み出し**、**大阪の成長**にもつなげていく。

■「民都・大阪」フィランソロピー会議の設置

「民都・大阪」フィランソロピー会議

フィランソロピーへの関心が世界的に高まりつつある中、**多様な担い手が、法人格の縦割りや営利・非営利の区分を越えて一堂に集い、**それぞれが公益活動を担う主体だということを再認識（共通のアイデンティティを形成）し、**大阪の民の連携・協力によりその存在感を国内外に示す「核となる場」**として、「民都・大阪」フィランソロピー会議をつくる。

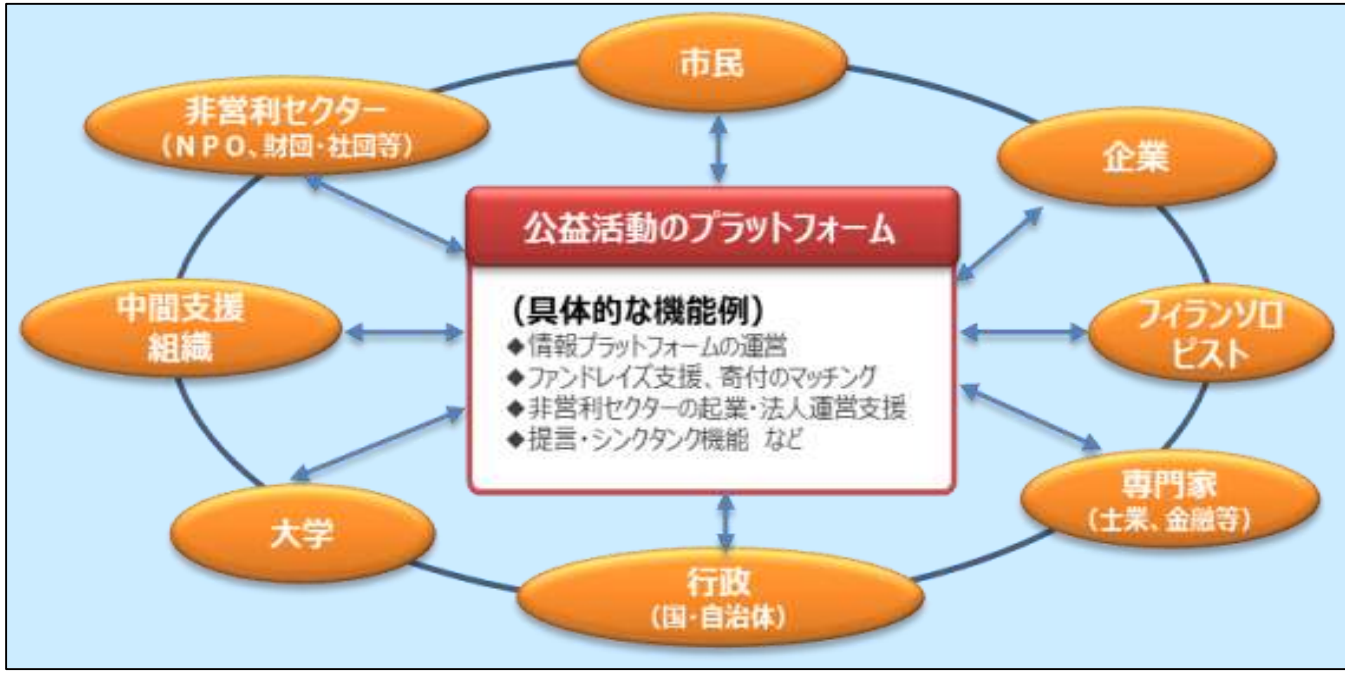
【会議メンバー】

（平成31年4月1日現在・五十音順）

	池内　啓三	学校法人関西大学　理事長
	岩田　敏郎	社会福祉法人聖徳会　理事長
	大槻　文藏	公益財団法人大槻能楽堂　理事長
	金井　宏実	認定特定非営利活動法人大阪ＮＰＯセンター　代表理事
	久保井　一匡	公益財団法人小野奨学会　理事長
	高　亜希	認定特定非営利活動法人ノーベル　代表理事
	阪田　洋	大阪府・大阪市副首都推進局　副首都企画推進担当部長
	白井　智子	特定非営利活動法人トイボックス　代表理事
	施　治安	「大阪を変える１００人会議」顧問
＊	出口　正之	国立民族学博物館　教授
	早瀬　昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会　常務理事
	藤田　清	公益財団法人藤田美術館　館長
	堀井　良殷	公益財団法人関西・大阪２１世紀協会　理事長
	松井　芳和	大阪府・大阪市副首都推進局　副首都企画推進担当部長
	森　清純	公益財団法人大阪コミュニティ財団　専務理事

（＊議長）

【核となる場（公益活動のプラットフォーム）のイメージ】



■「民都・大阪」フィランソロピー会議を通じた好循環

■ 核となる場の創出を通じた好循環

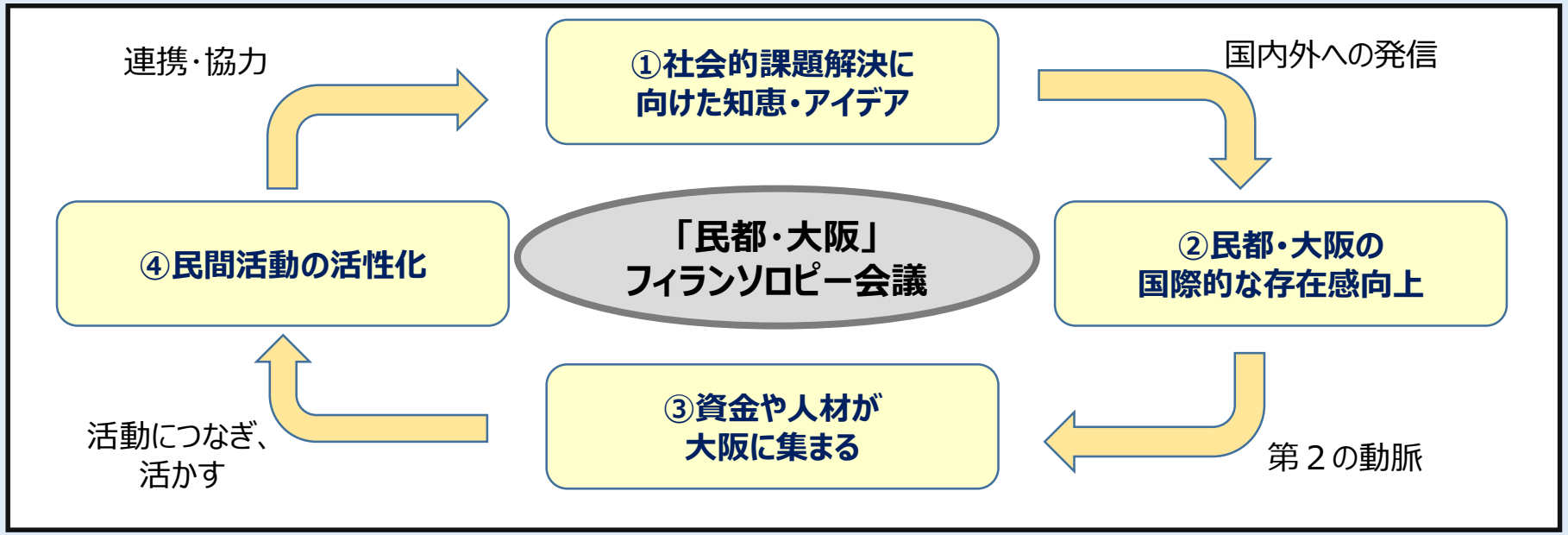
①この会議を核にして、大阪が抱える様々な社会的課題の解決に向けた**新たな知恵やアイデアを生み出す**。

②こうした大阪の動きを**国内外に向けて発信**することで、「民都・大阪」として、アジアを中心に**国際的な存在感を高める**。

③「民都・大阪」に、**第2の動脈として**、世界的な潮流である税の分配によらない民の自発的な発意による**寄附や投資、人材が集まる**。

④この資金や人材を、民が主体となって大阪における非営利セクターや社会的企業などの**活動につなぎ、活かす**ことで、活動の場を広げ、**民間公益活動の活性化**につなげる。

【循環のイメージ】



フィランソロピー都市宣言

世界では、寄附や投資等を通じた公益活動（フィランソロピー）が、社会的課題解決の第三の道として新たな時代の潮流となっており、「フィランソロピーの黄金時代」を迎えたとさえ言われている。わが国においても、NPOや社会的企業など新たな公共の担い手の増加、CSR（企業の社会的責任）への関心が進む中、課題解決のための新しい鍵として、非営利セクターと政府との協働が注目されている。

都市発展の歴史において民の力が大きな役割を果たしてきた大阪は、これまで民間公益活動の分野でも様々な先駆的な取組を生み出し実現してきた。こうした蓄積を活かし、この度、「民都」として大阪の民の力を最大限に活かす都市をめざして、官民が協力し、非営利セクター関係者が法人格を越えて集う「民都・大阪」フィランソロピー会議を設置した。

大阪は、この「民都・大阪」フィランソロピー会議を核として、府域全体における地域活動も含めた民間公益活動の担い手が垣根を越えて集い、その多様性を活かしつつ繋がることで新たなアイデアや知恵を生み出すとともに、非営利セクターの活性化やソーシャルビジネスの拡大などを通じて、これまでになかった連携や協働を生み出していく。これにより、様々な分野において豊かで美しい大阪に向けて民が主体となったソーシャル・イノベーションを創出する都市をめざす。

そして、持続可能な開発目標（SDGｓ）の達成に貢献するとともに、世界のフィランソロピストの思いに寄り添う都市として、日本・世界中から第2の動脈（寄附、投資、人材、情報）が集まり、民間公益活動の担い手を育て・支えていくことでその活動を拡げ、社会的インパクトを次々と生み出し続ける都市をめざす。

これらを通じて「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」の実現をめざすことをここに宣言する。

平成30年６月１日　「民都・大阪」フィランソロピー会議